

視 察 報 告 書

平成 22 年 7 月 13 日 (火)

長崎県長崎市 長崎市役所

①ながさき「食」夢市場運動について

事業の概要・経緯について（所要経費も含め）

- ◎ 地産地消の推進
- ◎ 販売戦略の策定
- ◎ 食の発信
- ◎ 食育体験の推進

食の宝庫である長崎の街全体を市場とみたと、消費者に長崎の特産物の良さを知り買ってもらい、生産者や流通業者にはもっと作ってもっと売ってもらおうといったように、生産者・消費者・流通業者が一体となった事業展開をするとともに、ながさきの食の魅力や食の大切さを発信することにより、長崎の街全体を元気にしようという運動である。

「Made in ながさきを食べよう」をコンセプトに

4つの食のネットワークの形成により、地場産業の振興・地域の活性化に取り組む。

全体のコーディネートについては、広く提案や意見を取り入れ、生産者の生産意欲を喚起し、販売戦略を策定し、商談会などを通して、ビジネスマッチングの機会を創出する。

②実施にあたり苦労した点や課題、またその対処の仕方について

（市民・事業等とのかかわり方、協働のあり方等も含め）

地産地消の推進にあたり、市内 28 ヶ所と大村湾漁協の農水産物直売所の在り方を検討し、直売所間のネットワーク協議会を設立。新しいニーズを聞き、JAをはじめ地元の企業とたえず連携を取りながら販売戦略の策定や、ながさき「食」さるく、和・華・蘭メニューの普及拡大を図るため PR パンフレットを長崎バスや空港へ設置したり、食の発信に努めている。

食育体験の推進にあたり、長崎の食についてさらに理解を深めていただくための講座や料理教室を開催したり、地元の小学校をはじめ県外の修学旅行を対象に農業や長崎の食について関心を深めてもらうために、作物の収穫作業など農業体験学習活動を実施している。

③事業の実績について（成功・効果）

各月ごとに PR イベントを行い、19 日を「食卓の日」とし、食のあり方についてのパネルディスカッションの開催や地元農水産物及び地元食材を使用した加工品等の販売などを行っている。

また、直売所のイベントや市内農水産物直売所で旬の食材の無料配布や抽選会等の開催、スーパーマーケットのチラシ掲載で地元食材の普及 PR を図り、学校給食での普及活動やテレビを活用した啓発広報も積極的に取り組んでいる。

④今後の事業展開について

九州最大の消費地であり、アジアにつながる大きな経済圏である福岡に、長崎市・佐世保市・雲仙市が共同でアンテナショップを開設し、3市の豊富な食を通じて福岡では知られていない長崎の新たな魅力を知ってもらうのと同時に、福岡のニーズを探ることで、地場産業振興と交流拡大、地域ブランドの創造による地域活性化を図る。

また、福岡都市圏へアンテナショップを開設することにより、それぞれの市の特徴を生かしながら、「美味しい」でつなぐキーワードに長崎の豊富な食の魅力をアピールし、販路開拓や消費拡大を推進していくとともに、産業振興の情報発信の拠点や観光情報の受発信基地として活用し、地域経済への波及効果や活性化を図ろうとするものである。

所感

福岡から九州全域、アジアを視野にしての運動であり、「食」をテーマにした「夢市場運動」は地産地消の推進・販売戦略の策定・食の発信・食育体験の推進を通して食のネットワークを形成し、地場産業の振興、地域の活性化を促す、文字通り夢あふれる事業だと感じた。

大津市は琵琶湖に代表される豊かな自然に恵まれ、多くの文化遺産などを有し、歴史に恵まれたまちである。大津市観光交流基本計画アクションプランには、地産地消の取り組みを活かして、大津を代表する味覚や食材による観光コンテンツの充実が謳われているが、長崎市の取り組みには大いに触発を受けた。

大津市においても、環境教育や湖国の食文化を一層広めていくことが出来るのではないかな。

(竹内 基二)